なかま No.93

発行：ボーイスカウト町田 13 団広報 2022 年 10 月 夏キャンプ特集号

『本来のスカウテイングを目指して ー 育成会長退任にあたって』

前育成会会長　下山田　弘

育成会会員の皆様におかれましては、日頃の１３団へのご尽力に、御礼申し上げます。

長らく活動を行って参りましたが、今ほどスカウト活動が必要な時代はないと思っております。このような時代、社会だからこそ、必要性は高まって来ていると思います。

野外活動を通しての青少年の健全育成に留まらず、地域社会のコミュニテイ造り、社会貢献、環境保護、国際交流とこのような多様な活動を行っている青少年団体はボーイスカウト以外ありません。しかし残念ながら、本来のスカウト活動を行う力のある団が年々減ってきております。そのような中、我が１３団は本来のスカウト活動を行なう事の出来ている数少ない団です。それは育成会員皆様が、それぞれの立場、役割に応じて力を発揮されているからで、誠にありがたい事で感謝の他ありません。

ボーイスカウトの役務は名誉職ではありませんので、心身共にお役に立てなくなった私個人は引退いたしますが、育成会員皆様は引き続き１３団へご尽力頂きますようお願いする次第です。

下山田さんより町田 13 団に
10 万円のご厚意を頂戴いたしました。
どうもありがとうございました。

長年の感謝を込めて、下山田さんへ
盾を贈呈させていただきました

『育成会長就任のご挨拶』

新育成会会長　中村　孝志

　このたびボーイスカウト町田 13 団の育成会会長に就任いたしました、中村孝志と申します。永年 育成会長を務め 精力的に活動され 13 団の運営をしっかりと担ってこられた下山田前会長に比べ、至らない点が多々あるかと思いますが、仕事と両立しながら責任を持って務めさせていただきます。

　思い起こせば、25 年前に息子がビーバー隊に入隊してから、親として、ビーバー隊長・カブ隊長・ボーイ隊長としてスカウト達と一緒に活動し、楽しく過ごした日々は、私にとってとても素晴らしい貴重な経験です。

　現在は事務局に席を置いており、現場から離れておりますが、少しずつキャンプ等々に参加し、また楽しみを共有したいと考えております。

　子供達の楽しい笑顔、それを見て喜ぶ親の笑顔、子供達が精一杯スカウト活動を行えるよう温かい目で見守っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

＊＊＊

『新年度を迎えて　－　ビーバー誕生！ようこそ13団へ』

団委員長　田地　司

　3 年ぶりの夏キャンプから 2 カ月が経ちました。スカウト活動は夏キャンプをもって一年の活動の集大成とする、あたりまえといえばあたりまえの循環が今年ほどありがたく感じたことはありませんでした。この号のキャンプ感想文を読めばスカウトも実に楽しんで活動したことがよく感じられます。

　さて、新年度の何よりも嬉しいことは新たにビーバースカウトが 2 人誕生したことです。柾谷唯人君がカブへ上進した後、ビーバー存続の危機を市川竜真君と斎藤隆文君の 2 人が救ってくれました。ぜひ一緒に楽しく活動してもらえるものと信じています。

　そして今年度は長年、育成会長の役務を担っていただいていた下山田弘さんが退任され、新たに中村孝志さんが就任されました。育成会という組織へ新たな風を送っていただけるものと思っています。また斉藤雅彦さんが今まで下山田さんが兼任していた進歩委員長に就任していただき、併せて野営行事委員長もお引き受けくださりました。これから皆さんと一緒に 13 団を盛り上げていきたいと思います。

　我々指導者の責務は、この活動の参加者を増やすことに尽きます。スカウト活動が素晴らしいことは皆が理解していますが、この運動が大きな輪にならないと世間からは何をやっているのかわからない「謎の団体」になってしまいます。

来年は発団 50 周年。様々な行事が計画されます。50 年を祝うためにも今年度は大変大事な年です。今年入隊のビーバースカウトや在籍のスカウトの期待に大いに応えて行こうではありませんか。

＊＊＊

『進歩委員長就任にあたって』

新進歩委員長 斉藤　雅彦

この度、進歩委員長を仰せつかりました、斉藤雅彦と申します。

ご無沙汰の皆様もはじめましての皆様もいらっしゃるかと思います。

私が、町田第１３団に携わったのは、今から２３年前になります。息子がビーバー隊に入隊するのをきっかけにビーバー副長となり、１２年間ビーバー隊とボーイ隊に従事していました。１０年のブランクはありますが、団活動に復帰できたことは光栄に思います。

復帰後いきなり、委員長という重責を任されることに不安は感じますが、町田１３団として誇れるスカウトを上進させるために、前任の下山田旧進歩委員長にも恥じないよう、精一杯頑張らせていただきます。

今まで、進歩に関して全くかかわることがありませんでしたので、進歩委員の皆様・各隊隊長および副長・団運営メンバーの皆様・保護者の皆様のお力添えをいただきますようよろしくお願いいたします。

＊＊＊

『ローバー隊だより～夏キャンプを経て～』

ローバー隊隊長　木村　孔紀

３年ぶりの夏キャンプと大人は言いますが、スカウトにとっては今回の夏キャンプはどのようなものだったのでしょうか。そもそも夏キャンプ自体が初めてのスカウトもいれば、上進して新しい隊で初めてというスカウトもいたでしょう。そういう私自身も RS の隊長になってから初めての夏キャンプとなりました。

RS 隊はここ数年でそこそこの大所帯となり、かなり活動の幅が広がったかと思いましたが、今回の RS の参加者は２名のみとなってしまい残念でなりません。しかし、そうした中でも VS 隊と協力して団行事を仕切ってくれたことは印象深かったです。

そもそも、夏キャンプ出発前のミーティングで「RS 隊は夏キャンプいつも何をやっているのですか」と聞かれるところが現在の RS 隊のスタート地点でした。本来、先輩がやっていることを見て「あれやってみたい」と後輩に言わせることが先輩冥利につきるのですが、これは RS 隊 OB の自分にとってはいささかショックでした。

しかし、彼らに肝試しや大営火の企画運営を任せると、自分たちで積極的に意見を出し、

リーダーたちに協力を仰ぎ、彼らならではの新しい企画を披露してくれました。彼らが「かつて何をやっていたか」ではなく「今の後輩スカウトが楽しめること」に注視してくれたことが非常によかったように思えます。

今回の夏キャンプについては、出席率の低さなど細かい反省点はたくさんありました。しかし「新生 RS 隊」の出発としてはそう悪くはなかったのではないかとも思っています。今の RS 隊に必要なのはこれまでの RS 隊の蓄積だけではなく、自分たちで考えて新しいものを作っていく経験だと感じています。そうした中で今回の夏キャンプは RS 隊として企画を任され、この後に続く VS の姿も感じられた良いキャンプとなりました。

末筆になりましたが、保護者の皆様のご理解ご協力のもと、３年ぶりの夏キャンプを無事に終えることができ、感謝申し上げます。今後ともスカウトたちの成長をともに見守っていただければと思います。

＊＊

『ベンチャー隊だより - やっぱり夏キャンプはいい - 』

ベンチャー隊隊長　本田　裕輔

スカウト活動へのご理解、ご協力ありがとうございます。

３年ぶりの夏キャンプが、馴染みのある金山山荘キャンプで実施されました。今回は通しで参加できるスカウトが複数いたので、西沢渓谷から甲武信岳まで直登し、大弛峠、金峰山を経由し、瑞牆山荘まで下る２泊３日の縦走を行いました。甲武信岳は経験したことのない急登で、フル装備のスカウトと永山Ｌには相当堪えたと思います。（私と瀧本Ｌは支援車の関係で、途中で下山し、キャンプ場に向かいました。）５月移動キャンプでのフル装備 20 キロハイク、BS 隊オーバーナイトハイク支援、７月赤岳登山という事前訓練を重ねたことで、格段にたくましい姿を見せてくれました。

後半の金山山荘での活動では、遅れて参加したスカウト1名とともに、ジュニアリーダーとして活躍してくれました。リーダーサイトでの食事準備、水晶採りでは各隊をまとめ、BS 隊の朝のセレモニーの後スカウツオンも担当しました。中でも感心したのはナイトプログラムの肝試しの企画と、RS 隊と協力して進行を担当した大営火で、通常の内容を当たり前に踏襲することなく、スカウトにとって面白いプログラムとは何かを真摯に検討し、指導者が企画した内容とは異なる可能性を示してくれました。一方他隊に目を向けても、3年前に行けなかった大日岩まで歩き切った CS 隊、短期間であらゆる技術を向上させた BS 隊（特に立かまどは私が知る限り、歴代最高の出来でした）。

残念ながら雨天のため、マスつかみはできませんでしたが、バーベキューはしっかりBS隊が仕切ってくれました。大営火も室内での開催でしたが、各隊素晴らしいスタンツで記憶に残る内容でした。

やっぱり夏キャンプはいい。短い期間では得られない充実感がたまりません。

来期も研鑽を重ね、成果を上げ、素晴らしい夏キャンプにしたいと思います。

＊＊＊

『ボーイ隊だより』

ボーイ隊隊長　宮本　隆太郎

新型コロナ緊急事態宣言が10月に明けた昨年度、3年ぶりに年間通して予定した活動を行うことができました。夏キャンプの開村式で、「平穏な日常を取り戻しても、キャンプができることを当たり前と思わず感謝の心を忘れないでほしい。」とスカウトたちに話しましたが、私自身も肝に命じたいと思います。

昨年初の隊集会で年間スケジュールを説明した際、最初のキャンプは10月中旬の『隊キャンプ』だと話したところ、一斉に「エ～！？」という悲痛な？叫び声が上がりました。どうやら久々のキャンプができるということで、『班キャンプ』を楽しみにしていたようなのです。通常の『隊キャンプ』というのは技能訓練を主体とした活動で、限られた時間内に作業を実施するためのタイムマネジメントや整理整頓などの生活面も指導しますが、『班キャンプ』は彼らが自分たちで活動計画、献立などをすべて決め、食材の買い出しも含めて実施する自由度の高い、おそらく彼らにとっては非常に楽しいキャンプです。（リーダーは計画のチェック、倉庫からの資材運搬などを行い、あとは安全確保のため彼らを遠巻きに見守ります。）　隊キャンプの前週は日曜の午前中に赤い羽根があるし、2週続けてキャンプすることになるけど、と伝えたところ、「日曜の朝にぜったい早起きして撤収作業します。翌週の隊キャンプも頑張りますから、班キャンプやらせてください！」との積極的な申し出があり、熱意に押されて急遽班キャンプを実施することにしました。日曜は約束どおり朝5時に起きて10時には玉川学園前駅に戻り募金活動を行いましたが、そんな彼らの前向きな姿勢に心を揺さぶられたことが、たった1年前なのに懐かしく思い起こされます。

ボーイスカウトの技能は上級生が下級生に教えるというのが基本ですが、昨年は中2（現中3）の最上級生がほとんど活動に参加できず、中1(現中2)が班長・次長としてほとんどの活動を展開しました。12月キャンプでは班の中学生が誰も参加できず、小6のスカウトが小5の2名をまとめ3人でやり遂げた、なんてこともありました。ちなみにBS隊では、「やだなあ」「面倒くさい」「かったるい」「つまんない」「無理」など、後ろ向き、否定的な言葉は使わないという約束をしています。どうやら隊長の私が雨男？らしく、昨年は天候に恵まれないキャンプが続きましたが、彼らは雨の中でも明るく楽しく元気よく活動してくれ、隊長の私が逆に勇気づけられました。

さて、今年度の BS 隊年間テーマは『Break through the limits !! （限界突破）』です。昨年、彼らは大きく成長しましたが、まだまだ成長できる可能性を秘めているはず。限界というのは、自分の思い込みに過ぎません。彼らの持っている能力を最大限に発揮して、ベストを更新し続けてほしいと願っています。高度な野外活動を楽しむための技能向上と同時に『志』も重要です。「将来、君たちが立派な社会人になれるよう、キャンプやハイキングなどの屋外活動を通じて『自発性』を高めていくのがボーイスカウトの目的だよ。」と常々彼らに話していて、それは彼ら自身もよく判ってくれていると思います。保護者の皆さんも、お祭りで BS 隊のスカウトたちが頑張って手伝いしている姿をご覧になったと思いますが、彼らは自分たち自身の活動を充実させるためにお祭りで資金稼ぎをしているんだということを、ちゃんと理解しているのです。そんな、愛おしいスカウトたちに今年も 1 年間寄り添い、伴走していきたいと思う今日この頃です。

＊＊

『カブ隊だより』

カブ隊隊長　甲田　秀行

CS プログラムにご支援いただいた多くの関係者の皆様。ありがとうございます。

３年ぶりの夏キャンプ。あまりご存じないかもしれないですが、実は隊長になって初めての夏キャンプでした。場所は３年前と同じ金山平キャンプ場、前回のプログラムを思い出しながら、そして隊長がどうであったかを思い出しながらプログラムを作成していました。結果からいうと、とても素晴らしい夏キャンプになったと私は思います。前回、道半ばで下山をした金峰山登山。今年のスカウトたちはなんと大日岩まで登山、鎖場や急な山道もなんのその、さすが！と感じました。

スカウト達の体力的な成長もさることながら、服装についても今まではだらしない恰好？が多くみられたが、夏キャンプではピシッと着られるようになってとても嬉しく思います。1 年間のスカウト達の成長を感じられる有意義な夏キャンプでした。

『ビーバー隊だより』

ビーバー隊隊長　原　敏文

ボーイスカウト活動へのご理解、ご協力ありがとうございます。

一年間の活動を振り返ってみると、新型コロナと共存しての年であったと思います、日常生活から感染対策のマスク着用やソウシャルディスタンス、アルコール消毒、多数での活動、換気など活動するにはまだまだ制約の多い年であったといえます。

上進式からの活動内容は、「楽しく元気に遊ぶ」をモットーに活動してきました。とはいえスカウト２名での活動で、CS 隊と合同の活動が多くスカウト数が多いと楽しい活動が出来たと思います。組織拡充の方や他隊の指導者やスカウトおかげで、今年はゲスト参加の多い一年でもあり、来年度に向けて期待を多く持てたこともあり、団のわんぱくラリー、餅つき大会、クリスマス会、スキー訓練など本当に皆様にお世話になりありがとうございます。

私が BVS 隊の隊長に任命されたのが、2018 年ですがコロナの影響で３年ぶりのキャンプを迎え、一年間の総仕上げが夏キャンプでスカウトの３年間の成長が見られるのでとても楽しみですが、９月には CS 隊に上進することを思うと胸に込み上げてくる物が何度かありました。これも指導者をやっていていないと経験できないことだなと思いました。

最後に、「スカウトなかま」を増やそう!!　幼稚園や学校近所のお友達に声掛けしていただきスカウト活動の楽しさを伝えて欲しいと思います。スカウト及び 13 団発展のために、皆様のご理解とお声がけにご協力をお願いします。

＜夏キャンプ感想文＞

『２０２２年度夏キャンプ　金山山荘』

ローバー隊　山田　航平

今回の夏キャンプ『驥(き)は一日にして千里なるも、駑馬(どば)も十駕(じゅうが)すれば之に及ぶ』という言葉が短い期間ではあるが体現されたものであったと私は感じている。新型コロナが猛威を震い、実に隊にとっても、私にとっても久しぶりの夏キャンプ開催であった。

開催地はスカウトとして何度も訪れた懐かしい場所。１年の集大成として実施されるキャンプ。しかし、ここ数年で感染対策として、キャンプは疎か家型テントを建てる経験も減少し、本来のスカウトキャンプを知ること、学ぶことが出来なくなっている悲しい現状。それでも時代の流れで新たな形が形成され今でにない経験が実施出来たのも『禍を転じて福と為す』と言えるだろう。

今回のキャンプのテーマは『学ぶ・吸収』であったが、スカウトも私自身も学ぶことは多くあった。私は、引率として３日間 BS 隊と行動を共にした。しかし、初端から憂慮することが多く、先行きが未知数であった。なので、教えることも多く、私が過去に経験した失敗が彼らの成長を促すために最適解であった。

この短い期間で彼らは、指摘され各々で考えては、注意され、努力したと思う。それは少なからず、彼らの今後の活動の良い教訓になったと同時に、私が初心に立ち返るということで非常に重要であったと思う。

今回の経験や失敗だけでは測れないが、今後も向上心を怠らずに努力し続けることによって、周りからも模範となるスカウトに成長できると私は信じている。

……

『夏キャンプ』

ローバー隊　宮本　大河

今回の夏キャンプは、４度目となる金山山荘野営場だった。コロナ禍で３年ぶりとなる夏キャンプで、とても楽しみにしていた。

１日目は、キャンプ場への移動、設営だった。今回のキャンプはボーイの支援というような形だった。２，３日は泊りがけでの登山だった。情けない話だが、体力的にボーイについていくのは無理だとはじめから分かっていたので、自分の意志で登山をした。

２日目の瑞牆山登山は地図を持っておらず、完全に自分の感覚で歩いたため、結果的には富士見平小屋の裏側をグルっと回った形になってしまった。

３日目の金峰山登山は、森林限界まであと３０分程度というところで U ターンした。その時すでに時刻は１４時３０分を回っており、宮本隊長と一緒に下山した。僕の足はすでに限界を迎えており、自分でもびっくりするぐらい瑞牆山荘到着が遅くなった。自分の意志でそこまで行けたのは自分でもかなりメンタルが強くなったなと実感した。しかし、時間管理

に関してはまだまだなので、これからもっと努力していきたい。

５日目は、BBQ と大営火だった。今回は雨天プログラムの予定で、室内でやることとなった。正直、今回の夏キャンプで一番大変だったのはこの営火の企画、運営だった。幸い、団委員長をはじめとするリーダー、隊長たちが監修してくれたのでそこが唯一の救いだった。

実際、営火のエールマスターは何度か経験があるが、企画までもやることになったのは今回が初めてだった。そして何より、各班、組のスタンツのクオリティがめちゃくちゃ高かった。自分がカブ、ボーイの頃はあそこまでのクオリティのものは作れなかった。結果としては、大成功と言える。自分の新たな可能性を見つけたような気がした。

今回のキャンプは、久しぶりのキャンプということもあり、全体を通してとても楽しくできた。だが、色々と反省点も多かったので、今後も努力を重ねていきたい。

……

『2022 年度夏キャンプ』

ベンチャー隊　久保田　燈

今回の夏キャンプはアルバイトの都合のため３日目からの参加になりました。

そのため、初めて自分一人で県を跨いでキャンプ場に行くという経験をしました。特急の時間に間に合っているのか、バス停はここでいいのか？などかなり不安だったのを覚えています。結果的には特にこれといったトラブルはなく、無事に辿り着く事ができたので良かったです。

キャンプ場に着いた時には他の二人はまだ山の上だったため、テントをたててからはかなり暇でした。数時間が経って二人が山から戻ってきた二人はそこまで疲れている様子はなく割と生き生きしている様子でした。それからしばらくして、ボーイ隊も山から降りてきましたが、彼らもあまり疲れている様子がなく、かなり関心しました。

他にもボーイはかなり上手に立釜が作れていたのでそこもすごいと感じました。

夜はリーダー達が食事を用意してくれたので、特にやる事もありませんでしたが、山荘のお風呂に入りに行けたのですが、なんだか二人に申し訳なくなりました。

二日目（四日目）は水晶取りがあり３年前に行った所と同じ場所だったのですが、３年前は簡単に見つける事ができたはずの水晶が全く見つからず、本当に同じ場所なのかと疑うほどでした。

そしてここからが我々の仕事でした。ナイトプログラムでやる肝試しの内容を考えなければならなかったのですが、例年のようなただ驚かすだけのしょうもない事よりも、もっとアグレッシブな肝試しにしたかったのでかなり驚かし方や、設定なども頑張って考えたのですが、カブの子達はそこそこ怖がってくれていたのに対して、ボーイは殆ど何のリアクションもなくてかなり可愛くありませんでした。

三日目（五日目）はいつも通りのバーベキューでしたが、調理などはボーイがやってくれるので、我々はただボーイがやっているのを見守るだけでしたが、特に指導する事がないくらいボーイの子達はよくできていたと思います。その後は少し雨が降ってきたくらいで、特にトラブルもなく無事にバーベキューは終わりました。

ですが我々はまだ夜の大営火でやるスタンツがまだ決まらずにいました。

そして適当に言ったヲタ芸をやる事になり急遽、未経験者三人は練習をする事になりました。たった数時間の練習でしたがそれなりに形にはなりました。

大営火は昨日の肝試しとストーリーが繋がるような設定にしたので、いつもよりも異質な火の神様の登場になりました。他の隊のスタンツはどれもクオリティが高かったのですが、我々のヲタ芸はかなり散々な結果となったのですが、一応ウケはしたのでとりあえず良かったです。そして宮本先輩の一人コントが一番ウケていたのが割と面白かったです。

最終日は朝から雨が降っていて片付けが遅れると思っていたのですが、ボーイ達はそんな事関係ない感じで撤収作業をしていたのでそんな心配はいりませんでした。思っていたよりも時間がかからずに撤収作業が完了したので改めてボーイ達に関心しました。

作業が終わってからはセレモニーをして、我々以外はぶどう狩りに行きましたが、我々ベンチャーはそのままリーダーの車に乗って帰るだけでした。行きは電車やバスで４時間程かかったのですが車では2、３時間程で家につく事ができました。

今回の夏キャンプは前回から３年ぶりということで不安もありましたが、ボーイ達が思っていたよりもたくましかったのが印象的で自分達の時よりも上なんじゃないかと思いました。

『2022年夏キャンプ』

ベンチャー隊　西村　輝大

八月八日から十三日まで行われた夏キャンプでベンチャー隊は、初めの三日間登山をしていました。

一日目、二日目の大弛峠までの登山は急な坂道も多く、原生林のような登山ルートであまり景色も良くはありませんでした。三日目は、二日分の疲れがだいぶ溜まっている状態での登山でした。しかし、登山に必要のない荷物を車で運んでもらったおかげでとても足が軽く、天気も良かったので楽しく登山を終えることができました。

四日目は、ベンチャー主体でナイトプログラムである肝試しを行いました。正直あまりスカウトたちは怖がってくれなかったですが、無事に終えることができてよかったです。

五日目は、バーベキュー、スイカ割り、大営火を行いました。残念ながら雨が降ってしまったのでますつかみは行うことができませんでした。しかし、その分みんなバーベキュー、スイカ割りを楽しむことができました。

営火は室内での開催になってしまいましたが、スタンツを近くで見ることができるなど室内だからこそとても盛り上がることができたと思います。

六日目の最終日は、全員テキパキ行動していたことで時間通りに撤収でき、とても楽しくキャンプを終えることができました。

『集大成』

ボーイ隊　フクロウ班　齊藤　仁

ボーイスカウトになってから今まで、約二年間夏キャンプは実施されてきませんでした。そのため技能を会得していてもそれを試す機会がなく、今回の夏キャンプではじめて気づいた私自身の成長した点について書きます。

一点目は、ロープワークです。なぜなら今回のキャンプをとおしてロープワークで困ることがなかったからです。食テンの ぶたばな(※)が壊れていてもトートラインヒッチやふた結びなどで使用可能にしたり、立ちかまどを作った時今までより素早く頑丈に作ることができたりしたからです。今までのキャンプで立ちかまどを作ると言われると心の底から面倒くさいと思い苦手意識を持っていましたが、今回のキャンプで苦手意識が私でも立ちかまどを作れるという自信になりました。

二点目は体力です。なぜなら、二日間にわたる登山でもだいぶ余裕をもって登頂することができたからです。

カブスカウトの頃大山を途中リタイヤした私が、約 2200 メートルと約 2600 メートルの山に登頂することができたというのはもちろん自信につながりましたし、二日連続で登山をするというのは、他にない経験だと感じました。

三点目は人間性が高くなったと感じたことです。なぜなら自分から進んで魚を焼いたり整理整頓が少しできるようになったりしたからです。バーベキューの時自ら進んで仕事を引き受けるというのは今考えるととてもすごい成長に感じましたし、整理整頓についても今までは苦手分野だと考えていましたが、夏キャンプが終わった後キャンプ道具を整理できるものを作りました。

今回のキャンプでは全体的にうまくいったキャンプだと感じました。しかし私がミスをしたこともちろんあって完璧ではないので、今回に生かしてボーイスカウトとしての技能を高めていきたいです。また今後は今まで以上に後輩の育成に力を入れていきたいです。

『夏キャンプ』

ボーイ隊　フクロウ班　佐々木　永遠

僕は今年の数少ない活動で、夏キャンプは大きな思い出と経験になったと思います。

僕がキャンプを通じて感じたことは三つあります。

一つ目は自然の中にいる楽しさです。二日目、三日目に登山のプログラムがありました。二日とも道のりが長く、けわしかったり朝が早かったりしたので大変でしたが、登りきったあとの達成感をスカウト同士で分かち合うことができました。また、キャンプ中に雨が降ってきたのですが、普段の技能を生かしテントの立て直しなどを工夫することができました。

二つ目は、仲間との絆です。初日、立ちかまどをたてるときには、それぞれのパーツごとで役割を分担してスムーズにたてることができたし、調理時も、一級スカウトが火を見て、他のスカウトには指示を出すなど、先輩としての立場も果たせたのではないかと思います。困った時は、班員に頼ったり、逆に頼ってもらうことで、チームワークが築かれたと思います。

三つ目は、普段の生活の感謝です。家に帰ると、屋根があること、ベッドでねられること、水道があることなど、夏キャンプだけでなくいつものキャンプ後でもたびたび感動します。特に今回の夏キャンプでは、そういう「あたりまえ」があることにも、キャンプに行けたことにも親やリーダー方、周りの支えてくれる人に感謝すべきだと感じました。

このキャンプでリーダーや先輩のたくさんの話が聞けて、自分の中でためになったのでよかったです。一生忘れられない思い出ができました。言葉では表すことのできない、何ともいえない感情や経験があったので、それをずっと大切にしていきたいです。

……

『夏キャンプ』

ボーイ隊　フクロウ班　成澤　悠希

僕は、八月八日から八月十三日の五日間キャンプに行きました。夏キャンプは三年ぶりでキャンプサイトに行くのは三年ぶりでした。

一日目は、立ちかまどや食テントを立て、その後夕食を食べました。そして、登山の準備をし寝ました。

二日目は、瑞牆山という山を登りに行きました。瑞牆山は岩が多くゴツゴツとしていて登るのが少しむずかしかったです。

鎖を使う場面もあり大山とは少し違いました。瑞牆山の頂上は岩でした。岩のすぐ先を見ると下は五十メートル以上ありそうな距離でした。この日は、金山キャンプ場ではなく富士見平という所でした。その後は夕食を食べ早めに寝ました。

三日目は、早めに起き金峰山という山を登りに行きました。金峰山は前日に登った瑞牆山より距離がありました。けれど金峰山は瑞牆山より岩が少なく、少し楽でした。しかし岩が少ない代わりに峰がありました。峰は細かったけれど、間から見える景色は綺麗でした。峰を進んで山頂まで行くと富士山がうっすらと見えました。山頂は雲より少し高くたまに雲の中に入りました。山頂で昼食を食べ少し休憩してから、下山しました。富士見平に着いて撤収してから、金山山荘に戻りました。金山山荘に着いてから夕食を食べました。食べ終わったら入浴しに行きました。三日ぶりにお風呂に入ったので気持ち良かったです。けれど、みんなも三日ぶりのお風呂だったので少し汚かったです。お風呂を上がった後は、グリーンバー会議をしました。その後に、寝ました。

四日目は、水晶を採りに行きました。水晶がある川は、金山山荘から遠くほとんどが上り坂でした。水晶はあまり大きな物はなかったけれど宝探しゲームみたいで楽しかったです。後半は、我慢対決みたいなことをしていました。その後、来た道を戻り昼食のカレーを食べました。食べ終わり金山山荘に帰ると今度は竹串を作りました。竹串を作り終えたら夕食を食べました。夕食の後はナイトプログラムのきもだめしをしました。きもだめしは面白かったです。きもだめしが終わってから班会議をしました。そして、寝ました。

五日目は、バーベキュー大会をしました。バーベキュー大会は焼きそばや焼肉をしました。焼きそばを作るのは楽しかったです。バーベキューの後には、すいか割りをしました。一級スカウトが割るまでにはすいかが半壊だったので一人目で割れました。すいか割りは見ているだけでも楽しかったです。その後、夕食を食べてから大営火をしました。どのスタンツも面白かったです。そしてお風呂に入ってからスカウト会議をやり寝ました。

最終日の六日目は、バスに乗ってぶどう狩りをしに行きました。ぶどうをたくさん食べてバスで町田駅まで行って解散しました。

夏キャンプは一年の中で一番長いキャンプだったので行けてよかったです。長いキャンプなので楽しいことがたくさんあったのでもう一度やりたいです。

『三年ぶりの夏キャンプ』

ボーイ隊　フクロウ班　高田　琉唯

　僕は三年ぶりに夏キャンプに行きました。

　一日目の朝は六時に町田駅に集合でした。荷物は重いし、眠くて、大変でした。集合したらまず電車に乗って、次にバスに乗って、キャンプ場に着きました。まず開村式をして、テントと立ちかまどを作りました。思ったより時間がかかって、大変でした。その後、ごはんをつくりました。夕食は豚キムチでした。辛い物が好きなので、とてもうれしかったし、おいしかったです。その後、会議をして、ねました。

　二日目は五時に起きて、朝食をたべて、すぐにみずがき山荘にいどうして、富士見平小屋にいどうしました。とても疲れました。だけど、とても水がおいしかったです。テントをたてたらみずがき山にのぼりました。岩が多くて危なかったです。十一時半ごろに山頂に着きました。とてもながめがよかったけど、疲れました。その後下山して、カレーをたべて、七時にねました。ねられないと思っていたけど、疲れていたので、ぐっすりねられました。とても足が痛かったです。

　三日目はまず四時半起きで、ビーフシチューをたべて、金峰山にのぼりました。みずがき山より、岩が少ないけど、距離が長かったです。山頂についたらごはんをたべて、下山しました。とちゅう両側ががけでとても怖かったけど、景色がよかったです。とちゅうでカブ隊とベンチャー隊にあったりしました。前日のみずがき山のつかれもあったけど、リタイヤ者は出ず、けがなくのぼれました。

　その後、テントをたたんで金山山荘についたらテントをはって、夕食をたべました。支給のパスタで、とてもおいしかったです。その後、入浴してねました。とても疲れました。

　四日目は、六時起きで、朝ごはんをたべ、水晶とりをしました。カブ隊と合同で水晶をとりました。大きいものはとれなかったけど、小さいものがたくさんとれて、うれしかったです。昼ごはんは本格的なカレーで、とてもおいしかったです。サイトにもどったら、竹ぐしをつくりました。マスをさすくし用です。すごく大変だったけど、楽しかったです。洗たくもして、ごはんをたべたらカブ隊と合同できもだめしをしました。思ったよりこわくなかったです。とちゅうで雨がふってきて、テンションが下がりました。その後班会議をしてねました。

　五日目はバーベキューをしました。まず机などを設置してやきそばからつくりはじめました。その後肉とやさいとマスをやきました。どれもとてもおいしかったです。ぼくは肉

ややさいをリーダーサイトにもっていきました。その後スイカわりをしました。たのしかったし、おいしかったです。少ししかたべられませんでした。その後スタンツを考えたりして、ごはんをたべてキャンプファイアーをしました。どのグループもとてもおもしろかったです。その後おふろに入って、ねました。

六日目は四時半起きで、とてもねむかったです。荷物をまとめて、テントをたたんで朝ごはんをたべて、てつえいをして、閉村式をして、ぶどうがりに行きました。僕は六個たべました。とてもおいしかったです。その後バスにのって町田えきについて、かいさんしました。

今回のキャンプは忘れ物がなく目標がたっせいできました。今回のキャンプのはんせい点を次にいかしていきたいです。

……

『夏キャンプ』

ボーイ隊　フクロウ班　香西　柊哉

僕は夏キャンプは初めてで、五泊六日なんて人生で一度もしたことがなかったのでどんなキャンプになるのか分かりませんでした。

そんな中の一日目、電車とバスで金山平のキャンプ場までつきました。そして、立ちかまどを作りました。立ちかまどを作るのは二回目だったけど、角しばりはぼんやりとしか覚えていませんでした。二級になるのにも必要なのでいっぱいやって覚えたいです。

二日目はキャンプ場をはなれて別のキャンプ場にまたテントを立てました。移動キャンプのようなことを初めてやりました。瑞牆山に登りました。岩場がとても多く、何かにつかまらないといけない場面もあったけど全員けがなく登れてよかったです。ですが、けが人が出なかったとはいえ安全面にあまり気をつけていなかったので、明日は気をつけようと思いました。

三日目は朝早くから金峰山に登りました。瑞牆山より休けいを意識して安全面に気をつけました。ですが、歩くスピードも気をつけたいです。その後金山平キャンプ場にもどり、おふろに入ることができました。五分間で出なければならなかったので僕なりのペースで入りましたが、間に合わなかったです。このようなペース配分の感かくは忘れないで覚えておきたいです。

四日目からは点検がありました。この日は準備がおくれていたという評価でした。話し合って五日目は三十分早く起きることになりました。これからはよゆうをもって行動できるように計画より早く行動したいです。CS と水晶採りをしました。ルールを守ってたくさん水晶を採ること

ができました。夜はきもだめしがありました。BS の先ぱいやリーダー、RS の大河先ぱいが驚かしてくれました。一人で行くのはけっこう怖かったです。

五日目の点検は時間に間に合いました。雨が降っていたのでグダグダしました。でも三十分前に起きたことで雨でもできることを見つけられました。具体的には食器などの準備、火をおこすためのセットなどです。準備を入念にしてそんはないと感じました。バーベキューをやりました。調理は先ぱいがやってくれたので僕は準備片付けを中心にやりました。役割分担ができたのでよかったです。大営火は室内でしたが、とても楽しかったです。

六日目は荷物をパッキングしてついにキャンプ場をはなれました。ぶどう園ではぶどう狩りをしました。僕は二房しか食べられませんでしたが先ぱいが十六房も食べていたのでびっくりしました。

僕はこの夏キャンプで色々な技能や力を手に入れることができました。僕が夏キャンプに向けて立てた目標の一つの、先ぱいから仕事をもらうは達成することができたと思います。技能はまだまだですが志は良いものになったと思いました。

……

『ボーイ隊で初めての夏キャンプ』

ボーイ隊　フクロウ班　荒　旬之輔

ぼくは、八月八日から八月十三日までの五泊六日の夏キャンプに行きました。ぼくは、カブスカウトの時にも行きましたが、個人テントでねるのは、初めてでした。それに、今回はキャンプの後半から、雨が降り続いていたので、移動やご飯時はすごく大変でした。今回も色々な経験をしたことや反省点がたくさんあります。

最初に、今回のキャンプで新しくおぼえたことがあります。それは、立ちかまどを作るときに使う、角しばりとはさみしばりです。ぼくは、スカウトハンドブックを見ながら練習しました。ぼくは先ぱいやリーダーに教えてもらいながらやっとおぼえました。ぼくは、またすじかいしばりがおぼえていないので、練習したいです。もうひとつは、雨の場合、テントのフライシートをインナーテントにくっつけないということです。なぜかというと、もしくっついていたら雨が入ってしまうからです。そして、グランドシートを内側に折ることで雨がしみないことを学びました。

このキャンプで大変だったことは、移動やご飯の時です。雨が急に降ってきたせいで、移動の準備や撤収の時もすごく大変でした。それから、山登りの時は岩場が多くて、ぼくの身長より大きい岩もあったので登るのがすごく大変でした。それに、金峰山はぼくが今までに登った山の中で、最も標高が高い山だったので、すごく大変でした。

今回のキャンプの反省点は四つあります。

一つ目は、テントのフライシートとインナーテントの間をなるべく空けることです。ぼくはテントの短い方のかべにあまりすき間がなかったので、少しぬれてしまいました。それに、グラウンドシートを中に折りこんでいなかったのでグラウンドシートにたくさん水がたまってしまいました。次からはそこを気をつけたいと思いました。

二つ目は山登りの時の水分ほきゅうをするタイミングです。なぜかというと、ぼくは山登りの時にすぐ水がなくなってしまったからです。ぼくはどうしてもいっきに飲んでしまうので、次からは水を取るペースを考えながら登りたいです。

三つ目は、テントの中の整理整とんです。なぜかとういうと、すごく急いでいたのでしっかりとしまわずに、位置を決めないで置いてしまったからです。箱や袋などに分けることもできると思うので次からは意識したいです。それに、ぼくの大きなザックを足もとに置いたら、足があたって気持ちよく眠れなかったので次はバックの位置も考えながら寝袋をおきたいです。

四つ目は、飯ごうに入れるお米の水の量をまちがえてしまいました。ぼくが水を入れたときに、内ぶたから水がこぼれてしまいました。結果的にかたくなってしまったので、次からはこぼさず、丁ねいにやりたいです。

今回の夏キャンプでもいろいろな反省点などがあります。それを今度のキャンプに生かしていきたいです。今回のキャンプでも水晶採り、登山、スイカわりやバーベキューなどの楽しいプログラムもたくさんありました。今回のプログラムを計画してくれた、団委員長、隊長やリーダーに感謝しています。

この前、夏キャンプのあとに家族とキャンプに行きました。その時、夏キャンプでやったかくしばりやはさみしばりなどを復習して、おぼえました。それから、スカウトハンドブックを見て、てぐす結びや一重つぎをおぼえました。そして、フェザースティックという物をおぼえました。家族とのキャンプでたくさんおぼえたことがあるので、ボーイスカウトでも生かしたいです。

『夏キャンプを終えて　―登山で学んだこと―』

ボーイ隊　バイソン班　宮澤　陸人

今回の夏キャンプでは、約２日間の参加となったものの、非常に内容の濃いキャンプだった。この作文では主にメインとなった登山について振り返っていきたいと思う。

まずは、瑞牆山に登る前の行動を振り返る。概ね皆が自律して行動できていたものの、登る前の確認の甘さから、登った際に様々な問題が生じてしまった。その代表例がアメの管理についてである。登山の時の糖分補給として与えられていたにも関わらず、持ってきていないスカウトが出てしまった。その時に皆で助け合って分配したというような対応ができたのは成果だが、事前の確認で防げた事態だったと思うので、登る前のチェックや、水の量の確認などを今後取り組んでいきたい。

次に登る最中を振り返る。ペースは良かったものの、遅い人に歩調を合わせるということが出来ていなかったように感じた。登山中に何度か声かけで「辛かったら声をかけて。」とは言ったものの、進みが速かった影響で言いにくい雰囲気になってしまったと思う。次回の登山からは、自分も後輩を見て休み等の判断をしていきたい。

最後に、下山を振り返る。下山では、スカウト会議でリーダーが話していた安全を重視するといったところが出来ていないように感じた。最後のスパートでは、注意力が欠けて滑りそうな人も多かった。そして、そこを意識すると他の登山客への配慮が欠けてしまっていた。なので、次は、いろいろなバランスを考えた上で具体的な行動にしていきたい。

今回の登山では、反省すべき点もあったが成果も大きい。なので、成果は次回も続けて習慣づける、課題は次の機会に改善していく。これが大切だと思う。この考えを班と共有して、「理想の登山」に向け班一丸となって協力していきたい。

……

『夏キャンプ』

ボーイ隊　バイソン班　柾谷　深月

今回の夏キャンプは部活があり、キャンプ途中の４日目からの参加でした。途中からの参加で、しかも部活のため今までも隊集会にあまり参加できていなかったので、仲間に会うのに少し緊張していたけれど、会ってみたら時間を感じさせないくらいすぐにいつも通りの空気感に戻れたのでほっとしました。

４日目のプログラムは水晶取りでした。前回カブで参加した時よりも今回の方が取れる量が少なく感じました。水は冷たかったけど、その中で仁君と悠希君が川に肩まで入って我慢対

決のようなことをしていて面白かったです。自分もつかってみたけどとてもあんなに長い時間はつかっていられなかったです。

サイトに行ってからテントを立てた後に、ニジマスを焼く串を作りました。今回初めて自分のナイフを持っていきました。

　自分のナイフで何かを削るのは面白かったです。バイソン班は一級スカウトが自分しかいなかったけれど、食事作りは初級スカウトの海利が積極的に動いてくれたので指示が出しやすかったです。

　次の日、自分たちはバーベキューの準備をする担当だったので鉄板を運んだり調理をしたりしました。焼きそばづくりは均等に混ぜたりするのが大変だったけどやりがいがあり、後輩スカウトがおいしいと食べてくれたのがうれしく思いました。この日の夜は大営火でした。雨が降ったので室内になりました。スタンツは和田君が中心となり取りまとめてくれ、初級スカウトも積極的に意見を出してくれました。自分がいなくてもまとめられるくらい、後輩たちは頼もしかったです。スタンツは「スカウトの理想と現実」というタイトルでした。見ていた先輩やリーダーたちからも受けが良かったと言ってもらえてうれしかったです。

　最終日は雨がひどい中の撤営となりました。雨が降ったりやんだりを繰り返していたのでテントの撤営作業にてこずりましたが、予定時間より少し早く終えることができました。閉村式のあと、バスでブドウ狩りに行きました。自分は６房しか食べられなかったけど、10房以上食べている仲間がいてすごいなと思いました。

　今回の夏キャンプでは部活もありますが、膝の痛みもあり山登りに参加出来なかったのは心残りです。次回参加出来るときは登山も参加したいです。

……

『３年ぶりの夏キャンプ日記』

ボーイ隊　バイソン班　和田　達明

　８月８日から 13 日、３年ぶりとなる夏キャンプが開催されました。夏キャンプは、これまでの技術の集大成でもあります。今年のキャンプは、どのような出来事があったのでしょうか。

　１日目、６日分の外にはみだしそうな荷物を持って、金山山荘キャンプ場に到着。キャンプ場は坂が多く、テントが立ちそうなところはすぐにとられてしまいました。仕方ないので

腐葉土の坂の上に立てました。後から気が付きましたが、そこには兎の糞が落ちていて、初日から気が滅入りました。

２日目、前日に用意した荷物を持って、富士見平小屋まで車と徒歩で移動。標高が高くなるにつれて、支給された食料の袋がふくらんでパンパンになりました。目的地についたら、そこにテントを張り、トイレに移動。そこで、強烈なにおいを感じました。まるで、靴下にぬかづけをいれて、１か月熟成させたような匂いです。そのトイレは、水洗トイレではなく、バイオトイレでした。（名前こそ立派だが要するにただ排泄物を葉に食わせてあるだけ）あのトイレを掃除する人の人権は守られていない気がします。

トイレこそ放送禁止ですが、富士見平小屋は美しい山々に囲まれたところです。２日目、瑞牆山に挑戦しました。瑞牆山は普通の山とは違って、グローブが必要なほど岩や鎖場が多いと聞いていたので、９割ワクワク１割不安でした。登ってみての感想としては、最初の数百メートルは普通の山で、後半でほぼロッククライミングになり、山頂は崖でまるで空中にいるようだと思いました。また、つかれたタイミングで岩場が出てきたので、体力的にきつい印象でした。余談ですが、山頂からの景色は、学校の課題である絵のデザインに写しました。

３日目には、別方面から金峰山（きんぷざんや、きんぽうさんとも読む）に向かいました。こちらも瑞牆山と同じく、前半は普通の山と変わりはありませんでした。が、道に水晶が多量に落ちているところは違いました。どうして上まで上がってきたのだろうか？とそんなことを考えているうちに森林限界まであっという間に到達。あまりに早く着いたので拍子抜けしてしまいました。そういえば、瑞牆山よりも水の減りが遅く、体力もまだ残っています。金峰山は、瑞牆山より標高が高いにもかかわらず、非常に楽な山でした。

さて、ここである限界を感じはじめます。体が、あのバイオトイレのように臭くなり始めたのです。そこで欠かせないのがお風呂。ようやく入ることができました。とはいえ、シャワーもなくお湯も出てこないので大変でした。

日数は飛んで最終日の朝、ついにテントが浸水。朝から気分は最悪です。（そういえば初日もふんで気分が最悪だった。始まりと締めが最悪）今日はブドウ狩り。みんなブドウ農家を赤字にさせ、ブドウ狩りの問題点について農家の責任者を深夜まで会議させようと意気込んでいました。が、我らが戦場（農園）につくと、そこにはお昼ご飯のそばが！これは、安いそばを食わせて高いブドウをできるだけ食べられないようにさせる農園側の戦略!?　恐るべし農園、やはり企業は強い…（ただの考えすぎ）

結局８房しか食べられず、目標の 20 房には程遠く、ブドウ農園を赤字にさせることはできませんでした。ですが、この８房は自己ベストなので、個人的にはまあ満足です。

夏キャンプは、技術の集大成。いつもより設営や撤収の場面が多く、さらに山登りもあったので、より磨きがかかったと思います。キャンプに関係した全てのリーダー、隊長、その他の人々に感謝します。

……

『夏キャンプの感想』

ボーイ隊　バイソン班　廣石　櫂

ぼくは、このキャンプで思ったことを順番に書いていきます。

まず、瑞牆山と金峰山に関しては特に問題はなかったように感じました。ですが金峰山の終盤、落ちたら死ぬだろうって高さの所を三十分くらい登ったことによって、高所恐怖症（観覧車に乗ったら泣きそうになる程度）だったので歩くスピードが大幅に落ちました。高い山には二度と登りたくなくなりました。

次は料理についてです。本当にぼくが作った米は飯盒に穴でもあいているんじゃないかと思うくらいひどかったです。あと大変だったのはテントのポールが折れたことです。どうやって折ったのかわかりませんが、次テントをはるときは慎重にはっていきたいと思いました。

その後に荷物を全部せおって金山山荘に帰るとき、まめが足にできて帰るのが大変でした。

次は水晶採りです。これがまた遠く、まず行くまでがつかれる。それから水晶谷について川に足をつっこむと予想の 74.3 倍くらいつめたくてびっくりしました。ですが、水晶採りは楽しかったです。あと水晶ってけっこう汚いんだなぁとも思いました。次はバーベキューです。

自分は夏キャンプの中でバーベキューが楽しかったです。バーベキューに関してはあんまり書くことがないので次にいくと大営火です。今回は外でやったけれど、逆にスタンツが見やすくてよかったです。ぼくらも三時間くらいで作り上げたにしてはそこそこ良かったと思います。

それからバスにのってぶどうがりです。多分りんごとかならまだ食べられたとおもうんですけど、キングデラウェアはきつく、デラウェアと合わせて 11 個しか食べられませんでした。ぼくはそこで帰ったのでまとめにはいります。

ぼくは、今回が初めてだったんですけど、ぼくはまあまあがんばれたんじゃないかと思いました。今回学んだことは多いので、それを次に生かしていきたいです。

……

『夏キャンプ』

ボーイ隊　バイソン班　佐々木　海利

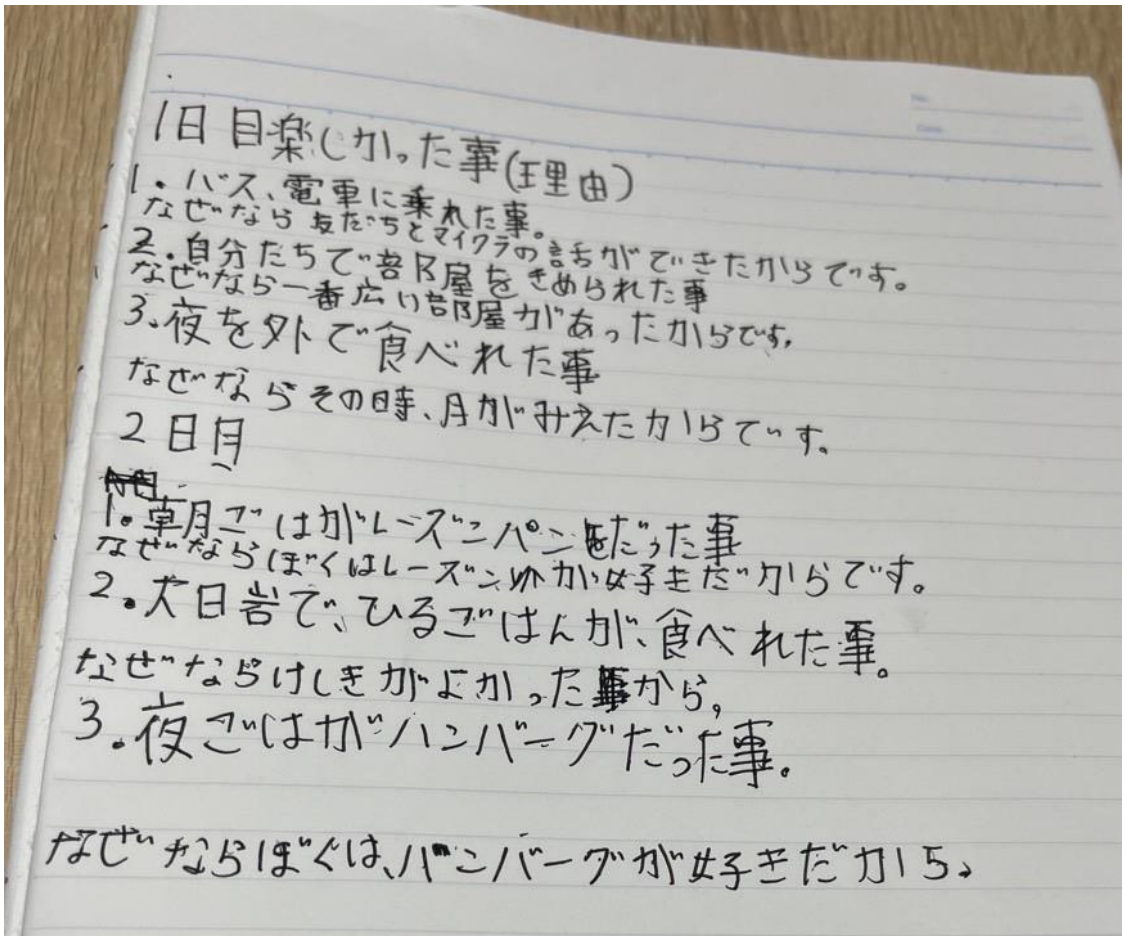
僕は今回ボーイ隊での初めての夏キャンプでした。5 泊 6 日という長期間のキャンプは初めてだったので、精神的にすごくつかれる活動だったと思います。

反省点としてあげられるのがまず時間管理です。今回バイソン班は上級スカウトの人数が少なく、入れかわりが多かったこともありますが、朝食後のかたづけ・きがえなどの時間管理をきちんとできず朝礼にまに合わせることができなかった事が一つ目の反省点です。

二つ目の反省点は登山での水の管理です。僕はまだのぼりはじめの時に水をのみきってしまい貴重な班の水をリーダーからもらうハメになってしまいました。水不足はキャンプ・登山等の野外活動では本当にあぶない事なので次からは気をつけたいと思います。

でもそのほかの活動ではロープワーク、せつえいのコツ、雨や風からどのように身を守るかなど、学びがたくさんありとても楽しかったです。今回は虫が多く、雨がふることもよくあったので、心が折れそうにもなりましたが、オーバーナイトハイク同様、やって良かったと思えるくらいたくさんの経験ができたことで、これらの学びを生かした活動にこれからしていきたいと思いました。

『夏キャンプ』　　カブ隊　しか　佐藤　龍成



1日目楽しかった事(理由)

1・バス、電車に乗れた事。
なぜなら友だちとマイクラの話ができたからです。

2・自分たちで部屋をきめられた事
なぜなら一番広い部屋があったからです。

3・夜を外で食べれた事
なぜならその時、月がみえたからです。

2日目

1・朝ごはんがレーズンパンだった事
なぜならぼくはレーズンパンが好きだからです。

2・大日岩で、ひるごはんが、食べれた事。
なぜならけしきがよかった事から。

3・夜ごはんがハンバーグだった事。

なぜならぼくは、ハンバーグが好きだから。

『キャンプが終わって』

カブ隊　しか　浅香　航大

夏キャンプが終わって

浅香　優希

ぼくは、夏キャンプで、よかったことが3つあります。1つ目は大日岩まで登山できたことです。自分は、登山しているとき、何回か転んでしまいました。なので、また転ばないように、いつもより足に力を少しこめて歩きました。そのけっ果、大きな事故もなく、安全に山を上り下りできたのでよかったです。2つ目は関時作業のときのロープワークです。キャンプのサイトを見ると、立ちかまどを作るのが、関時作業のロープの結び方が役立っているのに気づきました。なのでぼくは、今みに付ける1つ1つが大事になってくるのだと思いました。3つ目は大営火で、スタンツがもりあがったことです。たぶん、夏キャンプの思い出をスタンツにいれているからだと思います。

ぼくが夏キャンプで荷物の整理があまりできていなく、物をさがしているのはざんねんです。次からは荷物をきちんと整理し、さがさないようにしたいです。

KOBUNSHOIN (20×20 400字)

『夏キャンプ』

カブ隊　うさぎ　藤木　亮成

夏キャンプ

藤木　亮成

ぼくは、夏休みにボーイスカウトのみんなで山梨県へ四泊五日のキャンプに行きました。その中でも、一番思い出に残っていることは、みんなで金峰山を登山したことです。金峰山を登り初めた時は、平地で歩きやすく、森の中のけしきは、きれいでとても気持ちよかったです。

しかし、とちゅうから岩場やくさり場がよりしんどくなってきました。ぼくは、登りながら、もしかしたら、すべって命を落としてしまうのじゃないかとこわかったです。登るのに四時間かかったし、下るのも四時間かかってへとへとだけど、みんなで力を合わせて登れた事がよかったです。お昼に食べたわかめごはんは、最高においしかったです。

来年の夏休みもみんなでキャンプに行って仲間と楽しい思い出をつくりたいです。

コクヨ ケ-10 20×20

『夏キャンプ』

ビーバー隊　ビッグビーバー　柾谷　唯人

８月 11 日から 13 日まで山梨県の金山山荘でキャンプをしました。

11 日に水晶取りをしました。透明なきれいな水晶は二つくらいだったけど、ほかにもたくさん取れてうれしかったです。

そのあと、長谷川リーダーが作ったカレーを食べて、金山山荘に行きました。開村式をしたあと、カブ隊の部屋で一緒にネッチリングを作りました。ビーバー隊はぼく一人だったから、カブ隊の部屋で一緒にいてもいいよと甲田隊長に言われてうれしかったです。

二日目は雨が降ったりやんだりでした。マスつかみは出来なかったけど、マスをさばけていい経験になりました。初めて魚をさばいてみて、エラは取りにくかったけど、他はうまくいきました。宿に戻り、スタンツの練習をしました。スタンツのセリフは一つだったけど楽しかったです。雨が降っていたから大営火はできなかったけど、室内営火もいろんなことを工夫していておもしろかったです。中でもローバー隊のたいが先輩のスタンツとベンチャー隊のスタンツがおもしろかったです。

最終日に閉村式をしてバスでブドウ狩りに行きました。いっぱい食べられてうれしかったです。今回の夏キャンプでは初めてのことがいっぱいできてうれしかったです。来年はカブ隊になるのでもっと頑張りたいです。

＜夏キャンプ感想文（リーダー）＞

『2022 夏キャンプ日記』

ボーイ隊隊長　宮本隆太郎

コロナ禍のため３年ぶりに行われた夏キャンプ。スカウトたちは充実した５泊６日を過ごしてしてくれたのではないかと思います。BS 隊の活動紹介を兼ね、長いようであっという間だった 2022 年度の BS 隊夏キャンプを振り返ります。長文となりましたが、しばしお付き合いください。

8/8(月)

団トラック・支援車のリーダー組は、５時に山梨県北杜市の金山平に向け町田を出発。お盆のピークを外したせいか中央高速は混まず、８時前に須玉インター到着。近くのスーパーで生鮮食料など買い出して、いざキャンプ場へ。ここから車で山道を約 1 時間の道のりなのでキャンプ中の買い出しもままならず、今回は事前に買い込んだ缶詰や乾物を使った調理が中心。スカウトたちは 6 時に町田駅へ全員集合して韮崎まで電車、韮崎からキャンプ場までは路線バスで移動。1 本早い電車に乗って乗り継ぎ良く、予定より 1 時間早い 10 時過ぎに金山平へ到着。キャンプ場は約 1,400m の標高で夏でも涼しく、小高い木々に囲まれた芝生サイト全面貸切の、最高のロケーション。ホームグランドの小野路キャンプ場とは異なり水もトイレもあります。ちなみに、コロナ禍になる 3 年前の夏キャンプも金山平でした。

まずは開村式。年初に比べ国旗掲揚もようやく様になってきました。スカウト弁当を食べたら設営開始です。フクロウ、バイソンの班ごとに『食テン』(食堂テント、いわゆるタープ)を設置。今年のスカウトたちは『食テン』の設営がとても上手になりました。ほとんど弛みのない、ほれぼれするような張り上げぶり。そして個人テントの設営。コロナ禍前は、BS 隊では A 型テント（家型のテント）に寝泊りしていましたが、コロナ感染予防のため個人テントを利用するようになりました。みんなとワイワイ過ごせず寂しいのではと思いきや、個人テントのほうがくつろげるとのこと。

次はいよいよ『立ちカマ』づくり。竹材をロープで組み上げる移動式のカマドで、風向きや天候によって場所を動かすことができますが、限られた時間で完成させるには班員の作業分担・協力、ロープワークの技能が必要。昨年は立ちカマを作る機会が 2-3 回しかありませんでしたが、両班とも順調に作業を進め、しっかりした立ちカマをつくることができました。初日の夕食は豚キムチ丼。食事を済ませたあとは翌日の登山に向けた準備をして、早めに就寝。

夕食の支度で、薪が湿って火の調節ができなかった班が立ちカマでの調理を諦め、上級生の持っていた固形燃料でこっそり肉を焼くという“事件”が。（固形燃料なんて、何で持っているの？って話ですが、最近のスカウトはキャンプグッズに興味を示す子が多く、悪いことではないのである程度容認しています。何より私自身がグッズから入るタイプですので…）夜のグリーンバー（上級生会議）で、「良い、悪いは別として、決められた条件で調理をしなかったのは君たちだけでなく、後輩が成長する機会も奪ってしまったのが残念。」という話をしました。きっとスカウトたちには伝わったはず。

8/9(火)

4:30 に起床して登山に出発。「瑞牆山」、「金峰山」という日本百名山に選定されている２つの山に１泊２日でチャレンジ。麓の登山口までは支援車で移動し、ベースキャンプと

なる富士見平までテント、寝具、2 日分の食料、着替えなどをパッキングした重いキャンプザックを背負い約 1 時間の行程を登山。中腹にある富士見平キャンプ場でテントを設営してから、初日は登りの行程約 3 時間、標高 2,230m の瑞牆山をアタック。瑞牆山は斜度のきつい岩山で、ロッククライミングでも有名な山です。スカウトたちは滑りやすい岩場のルートをよじ登るように進み、通常の大人のコースタイムより早いペースで全員が登頂成功。山頂はそそり立つ岩の上にある狭く平たいスペースで、断崖絶壁の眼下をのぞき込むと足がすくみます。

下山もこれまた早いペースで進み予定より 1 時間早く帰還、ベースキャンプでゆっくりと過ごすことができました。隊長はスカウトのペースについていけず、暑くてバテバテ。富士見平には「平成の名水百選」にも選ばれた湧き水があり、冷水がこんこんと湧き出ていますが、戻った後の湧き水が実に美味かった。夕食はレトルトカレーとパックご飯でしたが、山の上で食べるとなぜか美味しく感じます。夜は翌朝に備え 7 時過ぎに就寝。山の夜は早い。

8/10(水)

4:30 起床、朝食はレトルトのビーフシチューとパックご飯。金峰山に向け 6 時にベースキャンプを出発。昨日より斜度は緩いものの、登り約 5 時間の長い行程です。天候にも恵まれたコンディションのなか、前日同様に早いペースで全員が 2,599m の金峰山に登頂。大人の食事一日分に相当する約 1800kcal の行動食をスカウトに持たせましたが、みんなそれでも足りないくらい元気で食欲旺盛。

登りの行程を 3 時間半くらい過ぎたところから森林限界となり、そこから先は片側が断崖絶壁の尾根道が続きます。絶景を目の当たりにしたスカウトから「うわぁ～！こんなすごい景色、夏キャンプに来ないと見れないよ～！」なんて嬉しい感想も。尾根道の途中で、甲武信岳～国師ケ岳～金峰山と 2 泊 3 日で縦走してきた VS 隊とすれ違いました。隊長は昨日に続き、スカウトに遅れを取りながら何とか登頂したものの、帰りは途中で激しい便意を催して苦しみながら下山。間一髪間に合いました。富士見平のトイレは当然ながら水洗ではなく、『バイオトイレ』という微生物が排泄物を分解・処理する大変エコなトイレ。スカウトには不評でしたが、用意してもらってあるだけでも感謝しないと。

今回スカウトたちは早いペースで登山することができましたが、それが必ずしも良いわけではありません。先輩と後輩の距離が離れてしまう場面もあり、全員の体調を考慮して無理のないペースで歩くことが大切。またリーダー2 名の登山靴のソールが剥がれ、テーピングや予備の靴紐を巻き付けて応急処置。経年劣化でたまに起こることですが、『備えよつねに』を改めて実感。

金山平に戻り、夕食のミートソースパスタを食べてから、徒歩約 7-8 分の CS 隊が舎営をしている山荘に行ってお風呂を借り 3 日ぶりに入浴。この晩、私はテント泊史上かつてないほどぐっすりと眠ることができました。

8/11(木)

今日は CS 隊と一緒に 5km ほど山を下り、水晶谷へ。かつてこの近くで水晶の採掘が行われていたとのことで、今でも川の底を探すと水晶のかけらを拾うことができます。みんな喜々と冷たい川に入り、水晶をたくさん拾って楽しんでいました。昼は CS 隊　長谷川リーダー特製のカレーライス。ちなみに今日の朝食はスパム缶とタマネギのオムレツ、夕食は鯖缶と大根おろしの みぞれ煮。缶詰も、ひと手間加えることで美味しく食べられるものです。水晶谷からサイトに帰ったあとの暇時作業では翌日のバーベキューでマスを塩焼きするための竹串を制作。みんな熱中して、黙々とナイフで竹を削りました。毎度の夏キャンプで目

にする光景なのですが、竹串づくりはなぜかスカウトを虜にする魔力？があるようです。
　夜は肝だめし。VS スカウトがなかなか凝った演出を考えてくれました。BVS・CS スカウトには恐ろしい体験となりましたが、BS スカウトの年代だと残念ながら反応は様々。

8/12(金)

　朝はサンマ蒲焼き缶詰とキャベツの炒め物。昼は全団でのバーベキュー大会。小雨模様のため大きなブルーシートをタープ代わりに張り、BVS・CS スカウトが川でマスつかみをしている間にバーベキューの準備。野菜を切ったあとは、テーブルにツーバーナー、鉄板をセットして大量のお肉、野菜を次々と焼く。そして焼きそばづくり。お祭りでは VS スカウトが焼きそばづくりを担当しますが、大量の焼きそばをいっぺんに作るのは意外と大変な作業。VS スカウトや本田隊長にも指導してもらいながら、今回はその予行練習と相成りました。
　BS スカウトたちは、自分たちが BVS・CS スカウトたちを楽しませるためのホスト役だということをちゃんとわきまえていて積極的に作業を行い、他隊のリーダーからも『今年の BS スカウトは素晴らしい！』とお褒めの言葉をいただきました。バーベキューの食材がけっこう余ってしまいましたが、夕食の中華粥の具材としてスカウトが全て食べ尽くしました。
　夜は雨のため山荘のプレハブ(室内)で大営火。バイソン班の出し物は『スカウトの理想と現実』、フクロウ班の出し物は『もしも、夏祭りで 1 円も稼げなかったら…』　こちらは 5 月キャンプの営火で披露した『もしも、さくら祭りで 1,000 万円稼いだら…』に続くシリーズものです。各班とも、よく練った面白いスタンツを披露してくれました。RS スカウトの宮本大河くんはひとりでミュージカルオーディションのコントを披露して大受け。一瞬、親目線に戻って何をやらかすのかとハラハラしましたが、こんな隠し技を持っていたとは。久々に盛り上がった大営火となりました。大営火のあとは入浴を済ませ、キャンプサイトに戻って就寝。

8/13(土)

　いよいよ最終日。4:30 に起床し、小雨の降るなか撤営開始。スカウトの作業も順調に進み、予定より早く閉村式を行いました。「頑張った君たちを誇りに思う。」と隊長からスカウトに心からの賛辞を送りました。
　帰路、スカウトたちは金山平からチャーターバスに乗車。途中、勝沼のブドウ園に寄って昼食とブドウ狩り。
　ブドウを 15 房食べた猛者も…。そしてバスは 15 時前に町田へ帰着。団トラック・支援車組は 13 時過ぎに団倉庫に到着し、雨が本降りになる前に積み下ろし完了。ケガや病気になるスカウト、またコロナで参加できないスカウトもおらず、5 泊 6 日の夏キャンプを無事に終了することができました。

……

『夏キャンプの報告』

ボーイ隊副長　荒　勇人

　3 年ぶりの夏キャンプである。世の中「コロナ禍」と言い続ける事を是とし、子どもたちの学校生活や日常生活においては、いまだに様々な制限を掛け続けている。例えば、音楽の授業では歌も歌えず、昼食はクラスメイトと向き合って楽しく話しながら食べることも出来ない。全員黒板を向いたまま、ひたすら「黙食」だそうだ。

翻って大人はどうであろうか。大人はさすがである。日本人の特性もあるのかもしれないが「本音と建前」を巧妙に使い分け、仕事が終われば居酒屋でコロナ禍という事を綺麗さっぱり忘れるというそれは楽しい一時を過ごすことができる。

一方で子ども達に制限を掛け続けておきながら、他方、大人たちはしばしの「アフターコロナ」を享受できている。我ながら、そんな不合理を作り出したままにしている大人の一員として反省と自戒の念に捉われる。

さてそんな中での夏キャンプである。他団においては、やむなく中止としているところもあったようだが、我が町田 13 団は「決行」と相成った。第７波が叫ばれている中、一定のリスクを冒してでも決行を決断していただいたのは保護者としてもありがたい。なにより子どもたち（以降スカウト達）にとっても何にも変えることができない貴重な体験ができたと感じる。これは今回、久しぶりの夏キャンプを通じてスカウト達と寝食を共にし間近で見ていたから感じることが出来たことであるように感じる。

やはりスカウト達を間近で見るものはいいものだ。こと夏キャンプにおいては普段と違う環境ということもあり、より興味深い。今回は２日目から３日目の 2 日間を瑞牆山の中腹にある富士見平という場所にある山小屋に隣接する平地をベースキャンプとして過ごした。（いわゆるキャンプ場とは違うため、テント場（ば）と言うらしい）

２日間にわたるこの場所での生活やそこからの登山の道中というのは、普段の日常と比べて何事も「制限された環境」だったと言える。大人、そして指導者という立場であるわたしですら本音を言えばちょっと辟易とする場面があるくらいだ。具体的なエピソードを書かないと面白くないので少し書いてみる。

ひとつ目はテント場におけるトイレだ。ひとたび中に入ると、目には見えないのだが確実に自分の嗅覚という部分にこの世のものとは思えない強烈な洗礼を受ける。昨今の高規格キャンプ場に慣れきってしまった軟弱な大人であるわたしは用事を済ますのに相応の覚悟を決めねばならないほどである。

ふたつ目は登山の時のことだ。カブ隊のスカウトソングで気に入った歌があった。その一節に「♪遥かに見える頂（いただき）を。草かき分けてまっしぐら」とあるのだが、実際の登山はそうもいかない。「♫岩を登り崖を下りて」間近に迫ってきたその頂をやっとの思いで登り切ると、なんとその頂は目当ての頂ではなく、また次の頂きが「遥か先に見えてくる」といった具合だ。今回、金峰山／瑞牆山ともに初挑戦だったわたしにとってはゴールが分からず、なかなかきつかった。（その分、初めて登るスカウト達と同じ気持ち・不安を味わうことができた。）

他にもいろんな洗礼を自然からは受ける。テント場での話に戻る。水が飲みたければ徒歩５分の湧き水まで取りに行かなければならない。その道中がまた「プチ登山」なのである。疲れ切った足腰にとっては、その往復１０分がとても遠くに感じたものだった。

そんなわけで自然環境に身を置く時間というのは、不便・不自由でとても「制限された環境」であった。

しかし、スカウト達を見てみるとどうだろう。たしかに不安や疲れを感じているようにも見える。が、皆で不安を払拭し、順応し、乗り越えようとしている姿も垣間見える。

トイレに行けば、全身に付着した強烈な臭気と共に笑いながら戻ってくるし、登山中もネガティブな雰囲気になることは皆無。テント場でのプチ登山となる水汲みも年長スカウトが率先して有無を言わずタンクを持って向かう。どうしたのであろうか・・・出来すぎなくらいだ。3 年前の CS（カブ）時代、スタートして１５分で「疲れた」「だるい」「もうダメだ」と音を吐かれ、困ったことを考えると見違えるようだ。

そして何より興味深いのは疲れの中にも時折（一瞬）輝いている部分が見えることだ。登山の最中、崖をよじ登ったあと下を見た際、今まで登ってきた高さを実感した時、また森を抜けいっきに視界が開け、見渡す限りの高原が眼下見えた時、テント場で苦労して湧き水を手に入れ口に含んだ時など、その瞬間瞬間に出る言葉•表情は普段ではなかなか見られない。

もちろんスカウト達もとくに意識しているわけではないだろう。ただ一人ひとりの表情・行動・発言からは、まさに今、体験した、経験した事に対する「感動」や「充実感」「達成感」といったものが脚色無しに生で聞くことができるのである。これがなかなか面白い。人によって表現の仕方は様々だからである。ストレートに表現する者もいれば、斜に構えた表現をする者もいる。だが総じて皆前向きだ。嫌な雰囲気を周りに伝播させる者はいない。

これぞまさに自然体験を通じて人間形成を図るというボーイスカウト活動の理念そのものなのではないかなと実感したひとときだった。（きっと自分自身の疲労が極限に達し、変に頭が冴えていたのかもしれない。普段いちいち考えないことを妙に考えてしまった）

いずれにしても、こういった事は同じ「制限された環境」であるコロナ禍ではあり得ない事ではないかと思う。こう考えるとスカウト達（子どもたち）にとっては「必要な制限」と「不必要な制限」がいかに人間形成にあたって影響があるか考えさせられてしまった。言葉を変えると「試練」であろう。「試練」は必要だが「制限」は必要ないのであろう。

いずれにしても、今回指導者として帯同することにより、自分自身も良い経験をさせてもらった。あらためてスカウト達を間近で見るのは面白いものだ。上述した通り、脚色・やらせ無しの様子を生で見ることができる。リーダーならずともぜひ活動には参加してみることをお勧めしたいと思ってしまうくらいである。

来年は伊豆七島のある島が候補に挙がっていると聞く。これはとても楽しみだ。やはり人間は常に「初めて行く場所」「初めて経験する事」が一番記憶に残ると聞く。何でも２回目は初回と比べ感動が薄れるものだ。今回わたし自身がボーイ隊になって初めての活動だったため、すべてが初めての経験だった。その意味ではスカウト達と同じ目線、同じ気持ちを経験させてもらった。よって、まだ見ぬ次の未知の場所に行くのは、新たな冒険と考えると楽しみになる。

開催に向けては幾多のリスクやクリアすべき課題もあるだろう。それなのにこの状況下において離島という場所を候補にあげて検討しているという話を聞くだけで、常にチャレンジして変化を出そうとする町田 13 団の「若さ」と「心意気」と「活気」を感じる。高齢化・

人手不足により、やむなく他団から転団させてもらったわたしにとっては、このありがたさが身にしみる。

わたしは現在、江の島のハーバーにおいて、子どもたちや体が不自由な方々に対して、セーリングの体験をしてもらう活動もしている。元々海は好きなので、海の素晴らしさや教育的効果は肌身に感じている。開催の暁には、おそらく行きの船旅から海からの素晴らしい洗礼を受けるであろうが、安全確保と意識の啓蒙には微力ながら協力したい。

最後に今回夏キャンプを企画・運営してくださった方、夏祭り等にて資金集めに奮闘してくださったすべての方々に感謝と御礼を申し上げたい。感謝の気持ちを込めて、なるべく今回の様子をつぶさに伝えようと思い、長文をしたためた次第である。

……

『夏キャンプ』

ビーバー隊副長　柾谷　禎子

三年ぶりの夏キャンプは三年前と同じ金山山荘でのキャンプでした。

今回はビーバー隊としてはスカウト一名の参加で指導者は二名という少人数のキャンプ。ビーバー隊が夏キャンプに参加するのもすごく久しぶりの事でした。

途中からの合流、そしてスカウト一名で寂しくないかな、と少し心配していましたが、そんなことはなくあっという間にカブ隊、ボーイ隊に混ざり楽しそうに冷たい川で水晶取りに夢中になっていました。宿舎内でもカブ隊と一緒に活動させてもらい、部屋も一緒に混ぜてもらい、一足早い疑似カブ体験をさせてもらっているようでした。

今まで夏キャンプはカブ隊の女子リーダーとして参加してきており、ビーバー隊リーダーとしての参加はいつのことだったか思い出せないくらい大昔のことで何をしていたかも覚えてないほど。食事等もカブ隊に甘えさせていただき、こんなにすることが無くていいのかしら？と不安になるほどのんびり参加させてもらいました。人数が少ないキャンプはどうなるのだろうと思い、つい前回の金山を思い出すと部屋に宿舎にあふれ出さんばかりのスカウトと指導者たちがいました。しかし、人数が少ないから楽しくない、なんてことはまるでなく、スカウト一人ひとりはとても良い表情で過ごしていました。ビーバー隊では宿泊を伴う単独のプログラムは行えませんが、団行事として参加させてもらい２泊３日の短期間キャンプでも仲間と同じ時間を過ごすことで得られたことが多くあったと思います。
今回の夏キャンプではビーバー隊独自のプログラムはほとんどなかったので、次回ビーバー隊でキャンプをするときは山登り！まではいかなくてもハイキング等の夏キャンプならではのプログラムを入れて盛りだくさんのプログラムをしていきたいと感じました。

＜スカウトキャンプ研修会 参加報告＞

『町田地区スカウトキャンプ研修会に参加して』

ボーイ隊副長　宮澤 直樹

９ 月 2～3 日に実施された町田地区スカウトキャンプ研修会に参加しました。この研修は、指導者向けの導入訓練課程（ボーイスカウト講習会）と隊指導者基礎訓練課程（ウッドバッジ研修所課題研修）の間に位置するスキルトレーニングの一つで、今回の研修では講師の方を交えてキャンプに関する技術を参加者同士で享受しあって再確認することができました。キャンプのスキルはボーイスカウトの 1 級の進級キーワードであり、その適用技能は結索を含んだ A 型テント／食堂テントの設営から、火おこしや立ちかまど製作を含んだ野外料理、夜間のゲーム等々範囲は幅広く、技能の再確認の良い機会となりました。

参加にあたって感じた点としては、コロナ禍以降の研修であり密を避ける対策と必要最低限の共同作業がプログラムとして上手く構成されていたことと、研修内容が必ずしもスキルだけではなくスカウト活動の精神性や指導におけるスカウトとの信頼関係や委任という考え方等々にも及んでいたこと、は自隊の活動の参考になりました。

研修当日は 2 日とも天候に恵まれて、私は研修終盤には暑さもあって疲労困憊状態でしたが、そんな中でもウッドバッチ研修を翌月に控えた他団の若い指導者達がほんのわずかな空き時間に「より簡便な違う方法はないか？」「暑くても楽しいことはないか？」等々ワイワイ言いながら考えて試行錯誤を楽しんでいました。彼らの自主的で自由な姿勢に強く感心するとともに、こういうスカウトを育てるためにはどうすべきか更に学ぶことと、こんな活動の姿をもっと社会に伝えることが私自身と自隊やこのボーイスカウト事業にもっと求められているのではないかと、この研修を終えて改めて感じました。

……

『スカウトキャンプ研修に参加して』

ボーイ隊副長　荒　勇人

去る９月３日から４日にかけて、東京連盟主催のスカウトキャンプ研修に参加させていただいた。開催場所は TBS の緑山スタジオと鶴川駅のちょうど中間あたりの三輪であった。なんでもここは鶴川エリアを中心に活動する町田 20 団さんの野営場があるらしい。

集合はスカウトハウスであった。元建設会社の倉庫をそのまま使っているとのことで、古さは感じられるものの、十分に広く使い勝手が良さそうだった。なによりご多分に漏れず、こちらの団にも「倉庫 Master」であろう御方がおられ、きっちり整理整頓なさっていたのが印象的であった。

さて我々は参加受講者ということでゲストでもあるが、そこはもちろんスカウトどおしということで、皆で協力しながら備品の搬出から始めた。倉庫から団の野営場までは徒歩５分といったところだ。しかし、これがちょっとした上り坂でリアカーに荷物を沢山積んだ状態で押すとなかなか 40 代にはキツいものであった。周囲をよく見ると参加者は皆若いこと

に気づいた。聞けば全員 20 代だ。年を取っている（失礼）参加者はわたしと同じく一緒に参加した我が 13 団の M 澤リーダーのみで、あとは皆さん 20 代とのこと。どうりでリアカーを押すのも軽やかなわけだ。というわけでフレッシュな力と心を多分に借りながら、どうにかリアカーを野営場まで運んだ。

野営場は「沢谷戸自然公園」の入り口から、急な上り坂を尾根づたいに登ること 1 分で着く。たった 1 分だが沢山の荷物を持っていると、これまたなかなかなものである。登りきったところは視界が開けており、ちょっとした広場になっている。これまた 20 団さんの気風なのであろう。とても整備されたカンジがした。普通の方が通ったら芝生の公園の続きかと見間違えんばかりである。我が 13 団のちょっとワイルドな森の中のイメージとは大違いである。聞けば、ここは個人の方の敷地とのこと。その御宅の裏山にあたる斜面のてっぺんがこの野営場にあたるそうだ。この斜面とてっぺんのちょっとした平地を整備する事を条件にご厚意で使わせてもらっているそうだ。どこも同じだがつくづくありがたいことである。

余談ではあるがわたしは城好きでもある。沢山の荷物を持ちながら徒歩 1 分の登山を終え、ふと思った。この辺りは「城にするならもってこいの地形だな」と思い、ふと地形を調べたところ、なんとここは本当にかつて城があったそうだ。戦国時代には後北条氏の支城のひとつだったとのこと。その名も「沢山城」。読み方はなんと「さわやま」ではなく「たくさん」と読むらしい。どうりで「沢山」の荷物を運んだわけだと合点がいった。

というわけで、思いがけずかつて城があった跡（城址）での一泊になった。きっとかつての雑兵たちもこの辺で煮炊きを共にしたのであろう。そう考えると、勝手に少し気分が高揚した。

プログラム自体はシンプルで実践的で好感が持てた。以前に横浜地区にて受講したボーイスカウト研修というのは、どちらかと言うとスカウト活動の理念・趣旨の紹介と、ビーバースカウトの活動を模したグループワークが中心であった。これはこれでなかなか面白かったのだが、一応技能は何も無いくせに「Scouting for Boys」だけはしっかり熟読している身としては、それを知らずして参加している方が多いことについて閉口したものだった。だが今回は違う。皆さん自分よりも先輩たちばかりだ。20 代のメンバーも皆、現ローバーまたはローバー出身とのことでわたしにとっては先輩である。ここは真摯に教えを乞おうと心構えた。

ただ意外にもスタートすると、どちらかと言うとすべて課目において自分のスペース・備品が用意されているため、さながら試験のようであった。ヨーイはじめ！と言われ、黙々と各々まずは火起こしから挑戦する。最初はちょっと緊張したが普段の活動と違って、すべて最初から最後まで自分だけの介在で活動できるため、これはこれでなかなか実践的で楽しいものである。とくに火起こしなどは、さながら競争である。（おそらく、わたしだけが勝手に思っていた）最初はちょっと緊張していたが、グループワークではなく、自分だけで言い訳なしの状況で行うのも楽しいものである。元々このキャンプ研修の目的のひとつが技能の習得・向上にあるとの事で、やはり人の動きを見ているだけでは身につかないのであろう。

各自一人ひとりに、焚き火用のドラム缶が用意されている。ありがたい機会だ。さて、わたしが勝手に思っていた「火起こし選手権」の結果だが、この火起こしに関しては一位を獲得した。ここは年長の意地を見せ、両隣のフレッシュな輩に火種をこっそりプレゼントする余裕もあった。ただ反省点として、講評の際、全体に向けて言われたことは薪の使い過ぎである。なるほど、たしかに反省である。「Scouting for Boys」にもたしか火起こしが下手だと煙が出すぎて敵に見つかるというくだりがあった気がする。今いる場所が、かつて戦場であったであろう城なだけに余計に反省した。

その他にも座学に加え「A 型テントの設営」「アックス／なたでの薪割り」から「立ちかまど」「調理台」の製作等、限られた時間の中でいろいろと企画があった。面白いのは「自分で枝を探し、アルミホイルを使って簡易フライパンを作り、目玉焼きを作る」というミッションもあった。それら全部が各自で扱えるよう一人ひとりの分が用意（枝は自分で探す）されているので、とてもありがたいことであった。普段の活動ではスカウトたちが主役のため、一歩引いて見ていることも多く、とくに「立ちかまど」「調理台」の製作は自分だけでイチからすべてを製作する経験は無かったため、いかに自分が分かったフリをしていただけであったかということが露呈してしまった。当然これらの製作でのレースは最下位の最有力候補である。これはいけないということで、さきほど火起こしの際に火種をプレゼントしてあげた輩と、社会人生活スタートと共になんと自在結びを忘れてしまったという事で優しく教えてあげたフレッシュな輩に、今度は真摯に教えを乞いた。地区の指導員の方からの指導も受けながら、何とか完成することができた。すっかり立場が逆転したローバーの皆からは「あ、で、でも・・・とてもキレイに仕上がってますね！」と慰めの言葉を頂戴した。とても優しい連中であった。

そんなわけで、一泊二日の日程はあっという間に過ぎた。参加していたローバーの皆は、今回の後、数週間後に開催されるウッドバッジ研修所の研修に参加するそうだ。居並ぶ若いメンバーたちは全員ウッドバッジに参加するための前段階として今回の研修に参加しているとのことだった。聞けば元隊においては既に CS の隊長等をなさっているとのことだった。なぜかを聞いたところ、どこも人手不足らしく強い要望によりやらざるを得ないようだ。わたしはこれを聞いてちょっと考えさせられてしまった。人手不足とは言え、なんとかその現状を改善すべく、社会人駆け出しの身でありながら、ひと肌脱いで来てくれているのかと思うと、とても感心した。が同時に、一保護者として考えた時、こんなに「若いコ」である青年が隊長と言われてしまうと、それもまた複雑な印象を持った。果たして本当にスカウト活動の意義を啓蒙し実践できるのであろうかとも思ってしまう。でも本人たちの気持ち・行動はとても崇高なものだし、とても敬服する。わたしが社会人駆け出しの頃は自分のことで精一杯であった。だからこそ複雑な気持ちになったのである。撤営（撤収）のため、再びリアカーに沢山の荷物を詰め込み、野営場と団倉庫を往復しながらそんなせつない気持ちにもなったキャンプ研修であった。

いずれにしても、今回キャンプ研修に参加させていただき指導者としても勉強になった。

こういった研修・講習というのは元々斜に構えて参加してしまうひねくれ者の自分ではあるが、参加してしまえば学ぶ部分はとてもあった。今後の団での活動においても、気分もあらたにスカウトたちの成長に繋がるようフィードバックもしていきたいと思う。ありがとうございました。

＊＊

『スカウテイング小話　その10 こどもの国』

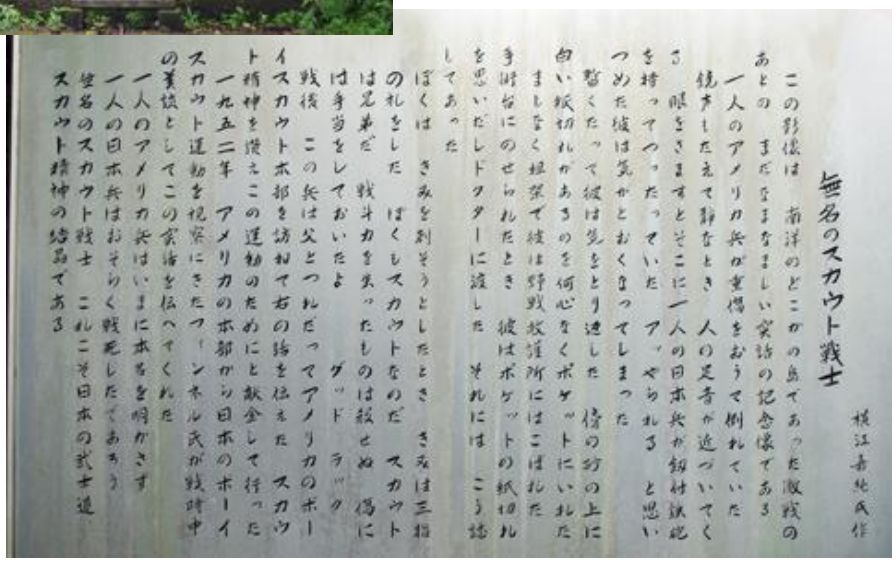
下山田　弘

１３団は毎年、こどもの国でB―P祭を行っているが、戦前は日本陸軍の弾薬庫で、戦後は閉鎖されていた。

それが、上皇陛下が美智子様とご結婚される時、記念公園として整備される事になり、その建設委員長を当時の日本連盟総長であつた、久留島秀三郎総長が務めた。

アンノンソルジャー「無名兵士スカウト」のレリーフの前で１３団は B―P を行っているが、全国のスカウトから募金を募り制作され、当時は久留島総長の自宅の庭に置かれていた。

こどもの国建設を機会に、こどもの国へ移転する事を久留島総長は願い出た。「当時の管轄は厚生省」ボーイスカウトは昭和天皇以来、皇室と関係があつたので認められ、現在の場所に設置された次第である。



無名のスカウト戦士

横江嘉純氏作

この彫像は　南洋のどこかの島であつた激戦の
あとの　まだなまなましい実話の記念像である
一人のアメリカ兵が重傷をおうて倒れていた
傷ましたえて静なとき　人の足音が近づいてく
る　眼をさますとそこに一人の日本兵が銃剣抜
を持ってつったっていた　アッやられる　と思い
つめた彼は気がとおくなってしまった
暫くたって彼は気をとり直した　傷の上に
白い紙切れがあるのを何心なくポケットにいれた
ましなく担架で彼は野戦病院にはこばれた
手術台にのせられたとき　彼はポケットの紙切れ
を思いだしドクターに渡した　それには　こう書
してあった
ぼくは　きみを刺そうとしたとき　きみは三指
のれをした　ぼくもスカウトなのだ　スカウト
は兄弟だ　戦斗を失ったものは敵とぬ　傷に
は手当をしておいたよ　グッドラック
戦後　この兵は父とつれだってアメリカのボー
イスカウト本部を訪ねて右の話を伝えた　スカウ
ト精神を讃えこの運動のためにと献金して行った
一九五二年　アメリカの本部から日本のボーイ
スカウト運動を視察にきたフ「ンネル氏が戦時中
の美談としてこの実話を伝へてくれた
一人のアメリカ兵はいまに本名を明かさず
一人の日本兵はおそらく戦死したであろう
無名のスカウト戦士　これこそ日本の武士道
スカウト精神の結晶である

入隊おめでとう！

2022年9月25日、ビーバー隊に

市川竜真くん と **斎藤隆文くん** が入隊しました！

これから一緒に楽しんでいこうね！

＜おまつり収益報告＞

2022 年度 お祭り委員代表
RS 隊　井上 由季子

コロナ禍で開催も危ぶまれたお祭りに、三年ぶりに出店することができました。
過去最高の売り上げをあげることができ、皆様のご協力に感謝申し上げます。
ありがとうございました。

★さくらまつり 4/2(土)、3(日)
純利益　**319,320 円**

★玉川夏まつり 7/29(金)、30(土)
純利益　**645,052 円**

今後とも、ボーイスカウト町田第 13 団にご支援をよろしくお願い致します。

＜玉川夏まつりの様子＞